

特定事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都市右京区嵯峨明星町1-1								
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	京都バス株式会社 代表取締役 西川康夫								
特定事業者の主たる業種	一般乗合、一般貸切、特定旅客自動車運送事業								
該当する事業者要件	<input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input checked="" type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））								
計画期間	平成20年4月～平成23年3月								
基本方針	グループ会社独自の環境マネジメントシステムを導入し、環境保全や資源の保護に配慮し自然環境に優しい企業活動を行う。								
推進体制	専務取締役を統括者、管理部長を環境責任者、各課課長を推進委員と定め、自主基準による目標を設定し、環境改善計画を構築し活動する。又結果について確認を行い、不適合なものは見直し是正を行う。（〈20〉環境マネジメントシステムの一環として現状認識し、プラン策定を行い実践している）								
	環境マネジメントシステム名称	京阪グループ環境マネジメントシステム	グリーン経営						
	適用範囲	本社・高野営業所・嵐山営業所	嵐山営業所						
具体的な取組及び措置の状況	取得年月日	平成18年度4月1日	平成21年3月19日						
	年度	設備、対象、工程等	措置内容						
	20～22	事業用バス	エコドライブ・アイドリングストップの徹底、最新の排ガス規制に適合した車両への代替、排ガス低減や燃費向上を図る為適正な車両整備を実施し、燃料消費率を3%改善する。（〈20〉3.28%改善）						
20～22	事務所・控室電力	クールビズ・ウォームビズの推進により電力の使用量を5%削減する。（〈20〉3.1%削減）							
20～22	事務用品購買	エコオフィス、グリーン購入に取組む。（〈20〉購入割合は事務用品全体の19.4%で19年度より48.5%減少）							
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） (19)年度 (二酸化炭素換算)	目標年度（計画） (22)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (計画)	報告年度（実績） (20)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (実績)			
	A 事業所等排出区分	184.0 t	180.0 t	-2.2%	172.9 t	-6.0%			
	B 輸送車両排出区分	5,561.0 t	5,400.0 t	-2.9%	5,404.7 t	-2.8%			
	C その他排出区分	195.0 t	195.0 t	0.0%	280.0 t	33.3%			
	排出合計	5,940.0 t	5,775.0 t	-2.8%	5,837.6 t	-1.7%			
実績に対する自己評価	A・B区分共に基準年度より削減となり、C区分は増加したものの合計は計画排出量に近づくことができた。今後も計画に向け社内でのエコに対する意識を更に高められる様、取り組んで行く。								
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
	嵐山営業所	二酸化炭素換算 (走行距離)	1.009 kg-CO2/km	0.980 kg-CO2/km	-2.9%	0.974 kg-CO2/km	-3.5%		
	高野営業所	二酸化炭素換算 (走行距離)	0.978 kg-CO2/km	0.950 kg-CO2/km	-2.9%	0.955 kg-CO2/km	-2.4%		
		二酸化炭素換算 ()			%		%		
実績に対する自己評価	嵐山営業所において、基準年度と比較して3.5%改善となった。高野営業所においても2.4%の改善であった。これは乗務員によるエコドライブが大きく関与していると思われる。								
地球温暖化対策買取量	対策等の区分	目標年度（計画）			報告年度（実績）				
		取組量等	二酸化炭素換算		取組量等	二酸化炭素換算			
	森林の保全及び整備	(整備面積)	ha	(吸収量)	t	(整備面積)	ha	(吸収量)	t
	市内産の木材の利用	(利用量)	m ³	(削減量)	t	(利用量)	m ³	(削減量)	t
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量)	kwh	(削減量)	t	(発電量)	kwh	(削減量)	t
		(熱供給量)	GJ	(削減量)	t	(熱供給量)	GJ	(削減量)	t
	グリーン電力の購入	(購入量)	kwh	(削減量)	t	(購入量)	kwh	(削減量)	t
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	(購入量)	t	(削減量)	t	(購入量)	t	(削減量)	t
	削減量等合計			t				t	
	地球温暖化対策に資する社会貢献活動	嵐山営業所：平成21年3月に交通エコロジー・モビリティ財団による「グリーン経営」認証を京都のバス会社では初めて取得した。							
特記事項									

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のそれぞれの年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは本市の区域内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を本市の区域内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の本市の区域内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、○に場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（製造品出荷額、延床面積、走行距離等）を記入してください。
 5 「地球温暖化対策買取量」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「地球温暖化対策に資する社会貢献活動」には、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献や地域における環境教育の実践活動など、地球温暖化対策や環境負荷の低減につながる活動を記入してください。
 7 「特記事項」には、1990年を基準とした排出量の対比や、温室効果ガス排出量の算定に当たって独自の係数を使用した場合など、説明を要する事項について記入してください。

